

論文

看護系大学生のジェンダー因子構造と親のイメージとの関連

坂口由紀子¹⁾、穴戸路佳²⁾、久保恭子²⁾、後藤恭一³⁾

1) 日本医療科学大学、2) 神奈川工科大学

3) AEIF 航空環境研究センター調査研究部

1. はじめに

日本におけるジェンダーに関する研究は1980年代ごろから徐々に増加し、近年では、ジェンダーに関する研究の中でも男女平等、性教育に関する報告が多く散見するようになった^{1)~3)}。また、ジェンダーという言葉から様々な用語が生まれ、「ジェンダー平等」、「ジェンダーアイデンティティ」、「ジェンダーフリー」などについての研究も最近では増加してきている^{4)~8)}。一般的にジェンダーとは「生物学的な男女の違い」と「社会的・文化的な性のありよう」の2面を持つといわれているが、内閣府男女共同参画局⁹⁾によると、ジェンダーの定義は国際的にも様々な定義づけや使用のされ方があり、研究者の認識も様々であることが予測される。先述してきた先行研究を読むと、日本では「ジェンダー」を「男女の性差」と考え、ジェンダーフリーやジェンダー平等という男女の平等に注目し、1980年の女子差別撤廃条約の批准、1985年雇用の分野における均等な機会及び待遇の確保等女性労働者の福祉の増進に関する法律いわゆる「男女雇用機会均等法」、1999年「男女共同参画社会法」と次々に制定されている。

一方、ジェンダーを「社会的・文化的な性のありよう」という側面をとらえてみると、その概念自体が教育の内容、家庭環境の影響を受け、性に関する意識の有様が変

化するのではないかと考える。先行研究では、親のジェンダー意識は子育て方針¹⁰⁾や幼児の色彩選考¹¹⁾に影響していることが明らかにされている。現代の大学生は、平成へと年号の変わった1990年代に誕生した子どもであり、男女平等が叫ばれ、男女平等の教育を受けて成長発達してきた学生であり、また、社会においても、女性の社会進出が進んでいく中で育ってきている。このような背景を鑑みると、平成生まれの子どもたちの親もまた、ジェンダーの考え方が社会の中で大きく変化する過渡期に子育てをしたという特徴を持っていると推察できる。

このような時代の社会的な影響と親のジェンダー意識の影響を受けながら成長し、親からの分離が始まる時期にある大学生はどのようなジェンダー意識や親というイメージが形成されているのであろうか。今後、大学生は子を産み育てていく年代であり、社会に出て対人関係をはぐくむ際にも意識を知っておくことで子育て支援のあり方や教育、後輩育成の際の一助になると考える。

本調査の目的は、看護系大学に通う大学生のジェンダーの因子構造と親のイメージについて明らかにすることである。

2. 研究対象と方法

1) 研究対象

A 看護系大学1年次生100名。

2) 研究方法

自記式質問紙調査。調査内容は、対象の属性（年齢・性別・家族構成）、ジェンダーに関する意識とジェンダーの構成因

子を4件法（4：とてもそう思う～1：そう思わない）で、父親と母親のイメージを自由記述にて調査した。

ジェンダーに関する意識をたずねる項目として、「女性が男性的な装いや髪型をすることは気にならない」「女性が男言葉を使うことに違和感がある」「男性の女性化は気にならない」「男性が化粧やマニキュアをすることは気にならない」「男性が女性的な話し方をするのは違和感がある」「男女平等と女性・男性らしさは異なるものである」の7項目を4件法（4：とてもそう思う～1：そう思わない）で調査した。

ジェンダーの構成因子を把握する項目として、「育児は無償の仕事である」「育児は女の仕事である」「育児は男女の共同作業だ」「男性も育児休業をとるべきである」「家事を男性にすべて任せて女性が出かけてもよい」「家事は無償の仕事である」「女性が外で働き、男性が主夫をしてもよい」「家事は男女の共同作業だ」「妊娠・出産の体験は女性だけのものである」「女性は生理があるので、体がつらい」「性的欲求が強いのは男性である」「性同一性障害は病気ではない」「同性愛は普通のことである」「男子校や女子校は性差別である」「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ」「男は弱音を吐いてはいけない」の16項目を4件法（4：とてもそう思う～1：そう思わない）で調査した。

父親と母親のイメージについては、「各々に対してあなたのイメージを、例えば（やさしい）などと3つお書きください」とたずねた。

3) 分析方法

ジェンダーの構成因子を把握するために因子分析（最尤法・プロマックス回転）

を行った。なお、分析に先立ち、ある選択肢に対象者の75%以上が集中して回答していないことを確認した。さらに、因子分析で得られた因子得点と、ジェンダーに関する意識、および親のイメージ間の関係については、Pearsonの積率相関係数により検討した。分析には、統計ソフトSPSSVer.20を用いた。また、父親と母親のイメージに関する自由記述については、KJ法を参考に分類した。

4) 倫理的配慮

質問紙は無記名とし、研究目的、方法、自由意思による参加であること、秘密の厳守等を明記した依頼文と質問紙を配布した。回収は回収箱を設置し、回収した。また、質問紙の提出をもって同意を得たと判断した。

3. 結果

1) 対象の属性

回答に欠損がなかった71名（有効回収率71%）を解析対象とした。年齢は平均19歳（18～27歳）、女性64名、男性7名であった。

2) ジェンダーの構成因子

ジェンダーの構成因子は『男女平等主義』『アンペイドワーク』『男女らしさ尊重』『生物学的性差』の4因子で構成されていた。

第1因子の『男女平等主義』は、「家事は男女の共同作業だ」、「育児は男女の共同作業だ」、「男性も育児休業をとるべきである」で構成された。第2因子『アンペイドワーク』は「家事は無償の仕事である」、「育児は無償の仕事である」であり、第3因子『男女らしさ尊重』は、「男は弱音を吐いてはいけない」、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育

てるべきだ」で構成された。第4因子『生物学的性差』は、「同性愛は普通のことである」、「性同一性障害は病気ではない」、

「妊娠・出産の体験は女性だけのものである」であった（表1）。

表1 ジェンダーの構成因子

	因子			
	男女平等主義	アンペイドワーク	男女らしさ尊重	生物学的性差
家事は男女の共同作業だ	0.974			
育児は男女の共同作業だ	0.689			
男性も育児休業をとるべきである	0.405			
家事は無償の仕事である		0.994		
育児は無償の仕事である		0.680		
男は弱音を吐いてはいけない			0.976	
女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるべきだ			0.366	
同性愛は普通のことである				0.655
性同一性障害は病気ではない				0.486
妊娠・出産の体験は女性だけのものである				-0.436
寄与率	25.824	17.492	14.713	10.188
累積寄与率	25.840	43.316	58.029	68.218
因子抽出法: 最尤法 回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法				

3) ジェンダーの構成因子とジェンダーに関する意識との関連

ジェンダーの構成因子とジェンダーに関する意識をたずねる項目との関連を検討した。第3因子『男女らしさ尊重』と

「男性の女性化は気にならない」、「男性が女性的な装いをするのは気にならない」、「男性が化粧やマニキュアをすることは気にならない」で負の相関が見られた（表2）。

表2 ジェンダーの構成因子とジェンダーに関する意識との関連性 (Pearson の相関係数)

	ジェンダーの構成因子			
	男女平等主義	アンペイドワーク	男女らしさ尊重	生物学的性差
女性が男性的な装いや髪型をすることは気にならない				
女性が男言葉を使うことに違和感がある				
男性の女性化は気にならない			-0.369**	
男性が女性的な装いをするのは気にならない			-0.449**	
男性が化粧やマニキュアをすることは気にならない			-0.403**	
男性が女性的な話し方をするのは違和感がある				
男女平等と女性・男性らしさは異なるものである				

4) 自由記述からみた親のイメージ

父親イメージは 97 名、母親イメージは 99 名から回答を得た。類似した内容をまとめ、カテゴリを作成した。

(1) 父親イメージ (表 3)

父親イメージは 11 個に分類され、「優しく尽くしてくれる父親像」「頼も

しい父親像」「明るく面白い父親像」など肯定的なイメージ、一方、「威厳的で厳しい父親像」「物静かな父親像」など肯定的とも否定的ともとれるイメージ、「怒りやすい父親像」「耳障りな父親像」「頼りない父親像」「自己中心的な父親像」「父親への無関心」「父親の拒絶」など否定的なイメージもあった。

表 3 大学生である子どもから見た父親イメージ

カテゴリ	コード
優しく尽くしてくれる父親像	やさしい、思いやりがある、何でもやってくれる、心が広い、おおらか、ありがたい、遊んでくれる、気が合う、子ども好き、送迎してくれる、子ども思い、好き、甘い、友人、大変そう
頼もしい父親像	頼りになる、責任感が強い、しっかりもの、たくましい、冷静、努力家、強い、尊敬、仕事、大きい、物知り、働き者、忙しい、まじめ、威厳がある、ボス、良く食べる
明るく面白い父親像	おもしろい、明るい、笑顔、いつも元気、話し上手、楽しそう、無邪気
威厳的で厳しい父親像	厳しい、怖い、頑固、考えが古い
怒りやすい父親像	すぐきれる、短気、怒りっぽい
耳障りな父親像	細かい、うるさい、小言が多い、おせっかい、心配性、声がでかい
頼りない父親像	面倒くさがり、頼りない、だらしない、家事をしない、男らしくない、マナーが悪い、小さい、軽い、ミーハー、不在がち、情けない
自己中心的な父親像	自分勝手、子どもっぽい、自分大好き、喧嘩、釣り、遊び、自由、酒好き
物静かな父親像	口下手、干渉しない、無口、静か、怒らない
父親への無関心	関心がない、興味がない、知らない、何を考えているかわからない、変わっている、大丈夫
父親の拒絶	くさい、汚い、来ないでほしい、無理

(2) 母親イメージ (表 4)

母親イメージは 10 個に分類され、「優しく穏やかな母親像」「頼もしい母親像」「家庭的な母親像」「よき相談相手としての母親像」「明るく面白い母親像」「女性的な母親像」など肯定的なイ

メージ、「疲弊している母親像」など肯定的とも否定的ともとれるイメージ、「耳障りな母親像」「頼りない母親像」「厳しくて怖い母親像」など否定的なイメージがあった。

表 4 大学生である子どもから見た母親イメージ

カテゴリ	コード
優しく穏やかな母親像	思いやりがある、やさしい、怒らない、おっとり、子ども第一、子ども好き、愛情がある、柔軟性、甘い、天然、子ども思い、家族思い
頼もしい母親像	しっかりもの、頼りになる、たくましい、働き者、まじめ、行動が早い、てきぱき、大変、忙しそう、理想、尊敬、すごい、何でもできる、努力家、大人、頭良い、強い、仕事、冷静、気配り、面倒見が良い
家庭的な母親像	料理上手、きれい好き、家事、子育て、清潔、家大好き、送り迎え
よき相談相手としての母親像	理解してくれる、相談相手、支え、味方、友達みたい、信頼できる、心強い、姉妹、好き、考えてくれる、好き
明るく面白い母親像	おもしろい、楽しい、明るい、元気、楽しそう、笑顔
女性的な母親像	かわいい、美意識高い、新しいもの好き
耳障りな母親像	うるさい、声が大きいの、おしゃべり、細かい、几帳面、心配性
疲弊している母親像	我慢しすぎ、疲れやすい、気を遣いすぎ、すぐ気にする
頼りない母親像	甘えん坊、だらしない、頼る、面倒くさがり、気分屋、適当、話聞かない、覚えが悪い、マイペース
厳しくて怖い母親像	厳しい、こわい、怒る、イライラ、喧嘩、機嫌が激しい

5) ジェンダーの構成因子と親のイメージとの関連

ジェンダーの構成因子と親のイメージとの関連を検討した。(表 5)。第 1 因子『男女平等主義』は、「明るく面白い父親像」 $r = -.380^{**}$ 、「父親への無関心」 $r = -.249^*$ 、「家庭的な母親像」 $r = -.312^{**}$ 、「頼りない父親像」 $r = .244^*$ と相関がみられた。第 2 因子『アンペイドワーク』は、

「優しく穏やかな母親像」 $r = .249^*$ 、「頼もしい父親像」 $r = .347^{**}$ 、「頼もしい母親像」 $r = .379^{**}$ と相関がみられた。第 4 因子『生物学的性差』は、「頼りない母親像」 $r = -.398^{**}$ 、や「物静かな父親像」 $r = -.283^*$ 、「明るく面白い母親像」 $r = .259^*$ と相関がみられた。

表5 ジェンダーの構成因子と親のイメージとの関連性 (Pearson の相関係数)

	ジェンダーの構成因子			
	男女平等主義	アンペイドワーク	男女らしさ尊重	生物学的性差
優しく尽くしてくれ る父親像				
頼もしい父親像		.347**		
明るくて面白い 父親像	-.380**			
頼りない父親像	.244*			
父親への無関心	-.246*			
自己中心的な父親像				
物静かな父親像				-.283*
優しく穏やかな 母親像		-.249*		
頼もしい母親像		.379**		
家庭的な母親像	-.312**			
明るく面白い母親像				.259*
頼りない母親像				-.394*

*相関係数は5%水準で有意 (両側) **相関係数は1%水準で有意 (両側) リストごと N=71

4. 考察

1) 看護系大学生のジェンダーの因子構造と親のイメージとの関連

本調査の結果から、看護系大学生のジェンダーの構成因子は、『男女平等主義』『アンペイドワーク』『男女らしさ尊重』『生物学的性差』の4つがあることがわかった。これは、対象者らが幼児教育、初等教育等で法の上では男女は平等であるということを教育され、生活の中で体験してきた結果であると考えられる。最近、草食系男子、肉食系女子などという言葉がよく聴かれるようになり、男性の女性化や女性の男性化がいわれている。マスメディア等では男性が女装をし、綺麗に化粧をしてテレビ画面に登場する場面が増加しており、以前よりも男性の女性化

に違和感を覚える人は少なくなったように感じる。一方、本調査の結果をみると、ジェンダーの構造因子の、性差を尊重する因子と男性の女性化には負の相関があり、大学生のジェンダー意識の中には、男女平等の考えが定着しつつも、あわせて、男女の性差を尊重する、「男らしさ」、「女らしさ」の意識もあわせて残っているものと思われる。また、今回の対象者はポスト思春期の時期にあり、性差を気にする時期であることも影響しているかもしれない。

本調査の結果から、ジェンダーの因子構造に両親のイメージが関連することがわかった。先行研究⁸⁾でも、親の養育態度がジェンダーに関連することが報告されており、本調査結果は先行研究の結果

を支持している。

2) 今後の子育て支援にむけて

本調査の結果から、ジェンダーの因子構造には教育や社会のありようととも親の育児姿勢や人間性が関連することがわかった。学生の親より少し上の年代であると推察されるが、昭和59年の東京都の調査¹²⁾によると、この時点の高校生は将来自分のめざすタイプとして男子は、仕事中心が半数を占めているが、仕事を持ち家事も分担は4割弱、女子では仕事もするが家事中心が45%弱程度、仕事もち家事分担、無職家事専念ともに25%程度であった。これは、「男性は仕事、女性は家事」という観念だけではなく、女性の社会進出が少しずつ増加してきたこ

とが背景にあると考えられる。しかし、家庭を構築する中で考え方は変化し、加えて社会の急激な変化に伴い、成長発達を続ける子どもも、育児をする親もジェンダー観は変化し続けていくものと推測する。子どもとその家族を支える専門職者である私たちは、その時々ジェンダー観に敏感となり、時代にあった子育て支援を提供していく必要がある。

5.おわりに

今回の調査は、看護系大学、単一の大学での調査であり限定されていること、女性が大半をしめており、一般化することはできない。今後調査範囲を広げることで、ジェンダー意識にどのようなことが影響するのか明らかになると考える。

文献

- 1) 目黒依子、矢澤澄子、岡本英雄編：揺らぐ男性のジェンダー意識 仕事・家族・介護，初版，新曜社，2012.
- 2) 奥村昌子、後藤ゆり、新井明日奈、玉城英彦：北海道の地方議会議員のジェンダー視点と性教育に対する意識，日本健康教育学会誌，22(1)，3-12，2014.
- 3) 村松十和：思春期の性的成熟とジェンダー意識 身体発育の自己受容を媒介として，岐阜医療技術短期大学紀要，18，9-30，2002.
- 4) 三石知左子：子どもを生み育てることが喜びとなる社会を目指して 少子化と男女共同参画 ジェンダー平等が子どもを生む機動力になる，小児保健研究，73(2)，252-256，2014.
- 5) 安川 康介、野村 恭子：日本の医学界におけるジェンダー平等について，医学教育，45(4)，275-283，2014.
- 6) 伊藤寛生、数見隆生：大学生のジェンダーロールとジェンダーフリーに関する意識 教育大学生と一般大学生の比較，東北学校保健学会会誌，48，25-26，2000.
- 7) 鈴木和代：ジェンダーフリーをめざした性教育，愛知母性衛生学会誌，21，61-66，2003.
- 8) 久保恭子、岡部恵子、大森智美：医療系女子大学生のジェンダーアイデンティティ獲得状況と親から受けた養育体験・子育て観との関連，日本看護学会論文集，母性看護，41，50-53，2011.
- 9) 男女共同参画局：「ジェンダー」の定義について(使用例)，2013年2月24日，http://www.gender.go.jp/kaigi/danjo_kaigi/siryu/pdf/ka18-3.pdf#page=1
- 10) 塚本利幸：子育てに関するジェンダー意識 - 女性就業率高位の福井県を事例として - ，福井県立大学論集，37，59-72，2011.

11) 清水隆子：幼児の色彩選好と親のジェンダー意識 - ピンク色選好にみられるジェンダー・スキーマ - , 早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊, 11 (1), 87-95, 2003.

12) 東京都幼稚園・小・中・高等学校性教育研究会連絡協議会：現代っ子の性－東京都小・中・高校生の性意識・性行動に関する調査報告, 教育開発研究所, p.88, 1984.